

5) できる限り原本の流れに沿ってレイアウトする。即ち、原本の本文、写真・図、囲み記事、解説文、注などの各要素を、できる限り、原本の配置のとおり、拡大本でも配置する。原本のもともとのレイアウトが分かりにくい場合でも、拡大本としての範囲を逸脱しない程度の編集にとどめる。

2章

天体の1日の動きと地球の運動

太陽は、毎日、東のほうから出て西のほうに入る。また、星座も、太陽と同じように、時間がたつにつれて見える位置が変化する。太陽や恒星のこのような動きは、どうして起こるのだろうか。

2-1 太陽は1日にどのような動きをするか

天球

地球から天体までの距離はまちまちであるが、はるか遠くにあるため、ながめると、どれも同じ距離のところにあるように見える。そして、あたかも、これらの天体をはりつけた大きな丸い天井が、わたしたちの上をおおっているように見える。これを天球とよんでいる。天球は、実際には存在しないが、天体の位置を示したり、動きを考えたりするときに便利である。

※1 恒星までの距離は、光年という単位を使って表す。
1光年は、光が1年間に進む距離で、約9兆4600億kmである。

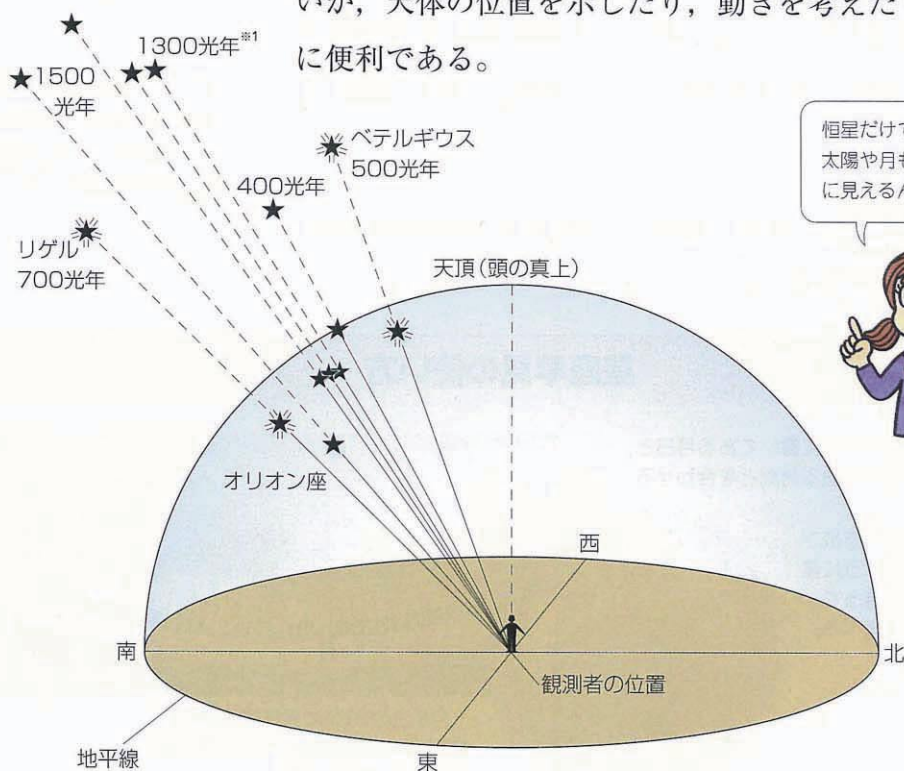


図3 天球の模式図

2章

天体の1日の動きと地球の運動

太陽は、毎日、東のほうから出て西のほうに入る。また、星座も、太陽と同じように、時間がたつにつれて見える位置が変化する。太陽や恒星のこのような動きは、どうして起こるのだろうか。

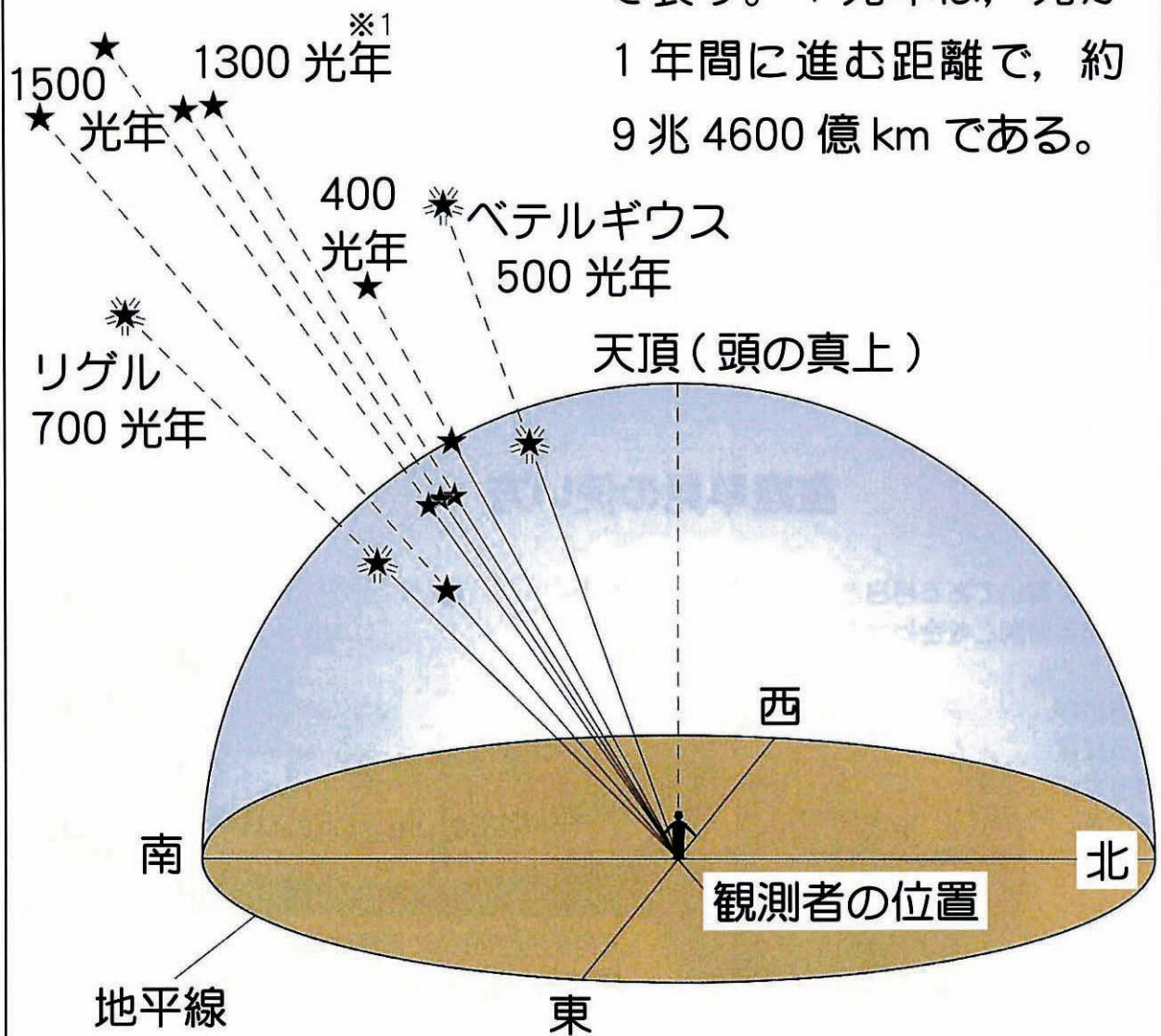
2-1 太陽は1日にどのような動きをするか

天球

地球から天体までの
距離はまちまちであるが、はるか遠くにあるため、ながめると、どれも同じ距離のところにあるように見える。そして、あたかも、これらの天体をはりつけた大きな丸い天井が、わたしたちの上をおおっているように見える。これを天球とよんでいる。天球は、実際には存在しないが、天体の位置を示したり、動きを考えたりするときに便利である。

図3 天球の模式図

※1 恒星までの距離は、
こうねん
光年という単位を使っ
て表す。1光年は、光が
1年間に進む距離で、約
9兆4600億kmである。



恒星だけでなく、
太陽や月も天球上
に見えるんだね。

